

取 組 一 覧

種 別	取組内容	事業実施主体	頁
タイラギ	平成30年度のタイラギの取組		P1
	①種苗生産・中間育成・移植	4県	P2
	②母貝保護	福岡県	P7
	③生息環境改善	佐賀県、長崎県	P11
	④凹凸覆砂効果実証	水産庁	P14
	⑤ナルトビエイ来遊調査	4県	P16
	⑥ナルトビエイ食害対策	4県	P21
	⑦浮遊幼生調査	4県	P26
アサリ	平成30年度のアサリの取組		P32
	①稚貝移植放流	福岡県、熊本県	P34
	②母貝場形成	長崎県、熊本県	P37
	③種苗放流	福岡県、熊本県	P40
	④稚貝中間育成	福岡県、熊本県	P43
	⑤網袋式増養殖	長崎県	P46
	⑥貧酸素対策調査	長崎県	P48
	⑦餌料環境改善	長崎県	P50
	⑧生息環境改善	福岡県、佐賀県、長崎県	P53
	⑨生息状況調査	福岡県、佐賀県	P58
	⑩資源量(生息量)調査	福岡県、佐賀県、熊本県	P61
	⑪ナルトビエイ来遊調査	4県	P65
	⑫ナルトビエイ食害対策	4県	P70
	⑬浮遊幼生調査	4県	P75
	⑭稚貝保護・育成(実証)	水産庁	P80
	⑮稚貝移植(実証)	水産庁	P82
	⑯母貝生息適地造成(実証)	水産庁	P87
	⑰カキ礁造成(実証)	水産庁	P90

種 別	取組内容	事業実施主体	頁
アゲマキ	平成30年度のアゲマキの取組		P92
	①種苗生産	佐賀県	P93
	②種苗放流	福岡県、佐賀県	P95
	③浮遊幼生調査	福岡県、佐賀県	P98
ガザミ	平成30年度のガザミの取組		P101
	①種苗生産	長崎県	P102
	②種苗放流	4県	P104
ウミタケ	平成30年度のウミタケの取組	佐賀県	P110
エ ツ	平成30年度のエツの取組	福岡県、佐賀県	P114

注:その他の各県重点魚種は未掲載

平成30年度のアサリの取組(1)

①稚貝移植放流

〔目的〕

アサリ稚貝の移植による母貝団地形成手法の確立

〔期待される効果〕

- ・適正密度管理によるへい死防止及び成長促進による生産性向上
- ・産卵母貝確保による再生産サイクルの形成



②母貝場形成

〔目的〕

- ・覆砂漁場におけるアサリの母貝場の形成
- ・アサリ母貝場の保護区化

〔期待される効果〕

- ・アサリ母貝場の創出による資源の回復
- ・アサリ母貝場の機能維持手法の確立による資源の回復



③種苗放流

〔目的〕

アサリ種苗を用いた放流技術及び管理技術の開発

〔期待される効果〕

- ・アサリ種苗を用いた生産性向上及び産卵母貝の確保



④稚貝中間育成

〔目的〕

アサリ種苗を用いた中間育成技術の開発

〔期待される効果〕

- ・アサリ種苗の放流最適サイズまでの効率的な育成



事業実施位置図



⑨生息状況調査

〔目的〕

アサリ天然稚貝の母貝場機能を検討

〔期待される効果〕

- ・着底基質設置によるアサリ着底環境の改善



⑤網袋式増養殖

〔目的〕

網袋式養殖の実用化に向けた採苗手法の調査

〔期待される効果〕

- ・網袋式養殖の生産現場への導入による漁獲量の回復



⑥貧酸素対策

〔目的〕

アサリ漁場における貧酸素対策の検討

〔期待される効果〕

- ・高濃度酸素水供給による躍層の抑制、底質環境の改善



⑦餌料環境改善

〔目的〕

アサリの減耗要因究明及び餌料環境改善手法の検討

〔期待される効果〕

- ・アサリの餌料環境改善による資源の回復



⑧生息環境改善

〔目的〕

アサリ漁場の底質環境改善

〔期待される効果〕

- ・アサリ漁場の生産力向上及び漁獲の維持・増加



平成30年度のアサリの取組(2)

⑩資源量(生息量)調査

〔目的〕

主要漁場におけるアサリの資源量(生息量)の把握

〔期待される効果〕

- ・アサリの資源回復に資する取組効果評価のための基礎資料の収集
- ・調査結果を漁業者に提供し、保護区の設定など資源管理に活用



⑪ナルトビエイ来遊調査

〔目的〕

二枚貝類を捕食するナルトビエイの来遊状況を把握

〔期待される効果〕

- ・二枚貝類の食害被害の軽減に資する基礎資料の収集



⑫ナルトビエイ食害対策

〔目的〕

二枚貝類を捕食するナルトビエイの捕獲

〔期待される効果〕

- ・アサリの資源回復のための有効な母貝場選定等の基礎資料



⑬浮遊幼生調査

〔目的〕

アサリの浮遊幼生発生状況及び経時変化を把握

〔期待される効果〕

- ・アサリの資源回復に資するための基礎資料の収集



事業実施位置図



⑭稚貝保護・育成(実証)

〔目的〕

アサリ稚貝から成貝までの保護、育成実証

〔期待される効果〕

- ・礫浜での稚貝から母貝までのサイクルの開発



⑮稚貝移植(実証)

〔目的〕

アサリ稚貝の高密度着生・集積域からの移植

〔期待される効果〕

- ・着生域、稚貝生息域の拡大のための移植手法の開発
- ・県内他地域からの搬入稚貝と現地での採取稚貝を併用した移植手法の開発
- ・湾奥域での高密度着生・集積域の拡大手法の開発
- ・高密度着生・集積域での移植手法の開発
- ・移植による漁獲量の増加



⑯母貝生息適地造成(実証)

〔目的〕

高地盤覆砂域の造成等による母貝生育適地の造成

〔期待される効果〕

- ・砂泥干潟での母貝の育成、採苗からの産卵サイクルの開発



⑰カキ礁造成(実証)

〔目的〕

カキ礁の造成による貧酸素水塊の軽減

〔期待される効果〕

- ・カキ礁造成のための方法及びカキ礁による貧酸素水塊の軽減効果に係る数値解析手法の開発



①稚貝移植放流

〔アサリ〕

〔目 的〕

○アサリ稚貝の移植による母貝場形成手法の確立

〔期待される効果〕

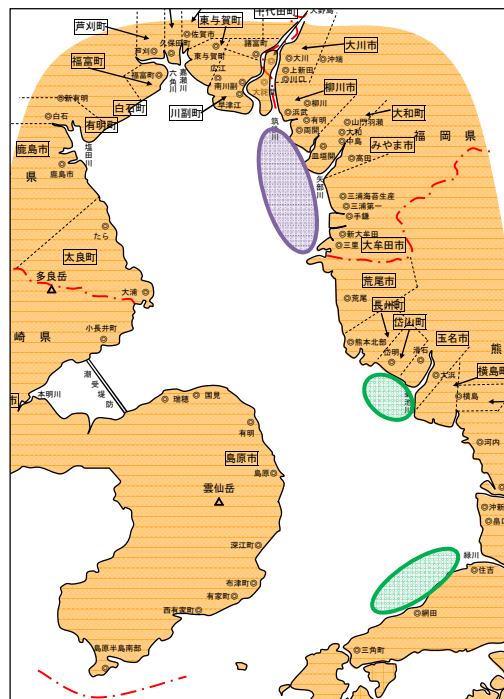
○適正密度管理によるへい死防止及び成長促進による生産性向上

○産卵母貝確保による再生産サイクルの形成

佐賀県

○該当なし

事業実施位置図



福岡県

〔調査内容〕

高密度に発生したアサリの間引き移植及び追跡調査による母貝場造成手法の検討

〔調査場所〕

5箇所（※生息状況により変動）

〔調査数量〕

10回程度

〔調査期間〕

周年

長崎県

○該当なし

熊本県

〔調査内容〕

天然アサリ稚貝の高密度発生場所から他の漁場への移植による母貝場造成手法の検討

〔調査場所〕

3箇所

〔調査数量〕

5回

〔調査期間〕

10月～3月

【福岡①】 施策名:アサリ稚貝の移植放流

〔アサリ〕

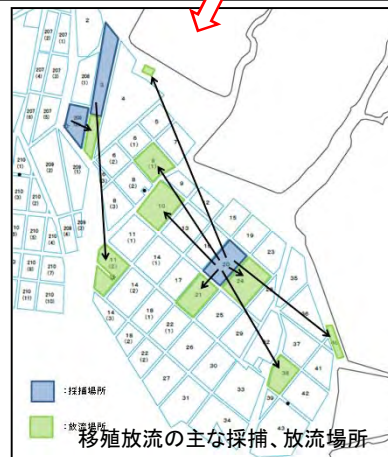
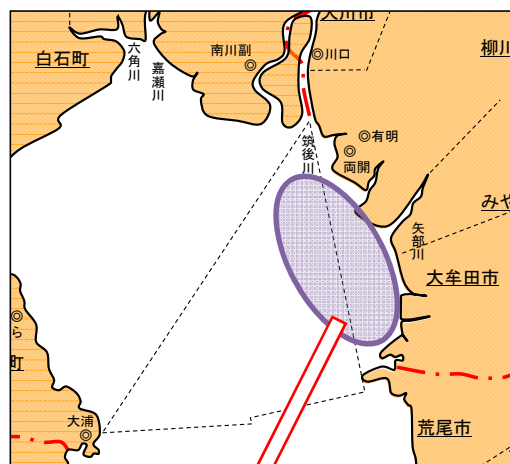
〔目 的〕

○アサリ稚貝の移植による母貝団地形成手法の確立

〔期待される効果〕

○適正密度管理によるへい死防止及び成長促進による生産性向上

○産卵母貝確保による再生産サイクルの形成



事業実施位置図

事業名	有明海特産魚介類生息環境調査委託事業																			
事業主体	福岡県(九州農政局より委託)																			
実施年度	H30年度																			
	H27年度～H29年度	H30年度																		
〔実施内容〕 高密度に発生したアサリの間引き移植及び追跡調査による母貝場造成手法の検討 〔調査箇所:3箇所(※生息状況により変動) 調査数量:10回程度 調査期間:周年〕	〔実施内容〕 同 左 〔調査箇所:5箇所(※生息状況により変動) 調査数量:同左 調査期間:同左〕																			
〔成果〕 ・H27. 11からH29. 6月にかけて、約802tを移植 ・アサリのへい死が抑制され、移植先のアサリが好成長(移植元に比べ殻長で5mm増加)	〔実施状況〕 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th><th>移植放流量</th><th>殻長</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5月</td><td>342トン</td><td>24.8～34.8mm</td></tr> <tr> <td>6月</td><td>121トン</td><td>27.3mm</td></tr> <tr> <td>7月</td><td>41トン</td><td>24.6～27.9mm</td></tr> <tr> <td>8月</td><td>7トン</td><td>27.6mm</td></tr> <tr> <td>計</td><td>510トン</td><td></td></tr> </tbody> </table>			移植放流量	殻長	5月	342トン	24.8～34.8mm	6月	121トン	27.3mm	7月	41トン	24.6～27.9mm	8月	7トン	27.6mm	計	510トン	
	移植放流量	殻長																		
5月	342トン	24.8～34.8mm																		
6月	121トン	27.3mm																		
7月	41トン	24.6～27.9mm																		
8月	7トン	27.6mm																		
計	510トン																			

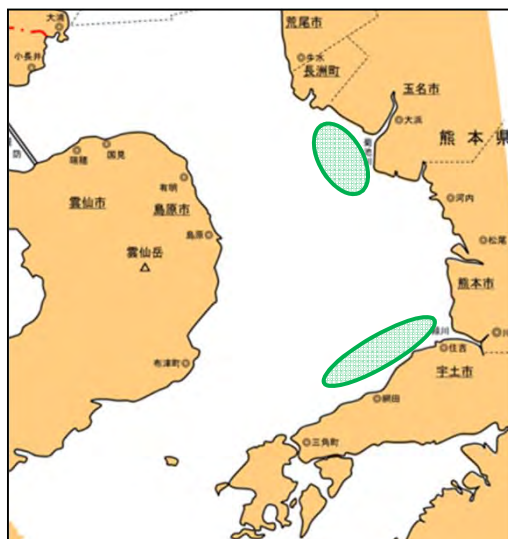
〔目的〕

○アサリ稚貝の移植による母貝団地形成手法の確立

〔期待される効果〕

○適正な密度管理によるへい死防止及び成長促進による生産性向上

○産卵母貝の確保による再生産サイクルの形成



事業実施位置図



〔稚貝移植〕

事業名	有明海特産魚介類生息環境調査委託事業	
事業主体	熊本県(九州農政局より委託)	
実施年度	H30年度	
	H27年度～H29年度	H30年度
〔調査内容〕	県内9地先において、各300㎡(1㎡/個)の網袋試験区を設定し、網袋毎のアサリ個数等を追跡調査 (調査箇所:9箇所 調査数量:15回(述べ) 調査期間:10月～3月) 〔成果〕 ・初期稚貝の着底が網袋1袋あたり最大約28千個体となる等、県内9地先全てにおいて、網袋の採苗効果を確認 ・網袋内のアサリは、群成熟度が高い傾向を確認(網袋内:0.9、対照区:0.6)	〔調査内容〕 天然アサリ稚貝の高密度発生場所から他の漁場への移植による母貝場造成手法の検討 (調査箇所:3箇所 調査数量:5回(述べ) 調査期間:同左) 〔調査状況〕 試験準備中

②母貝場形成

〔アサリ〕

〔目 的〕

- 覆砂漁場におけるアサリ母貝場の形成
- アサリ母貝場の保護区化

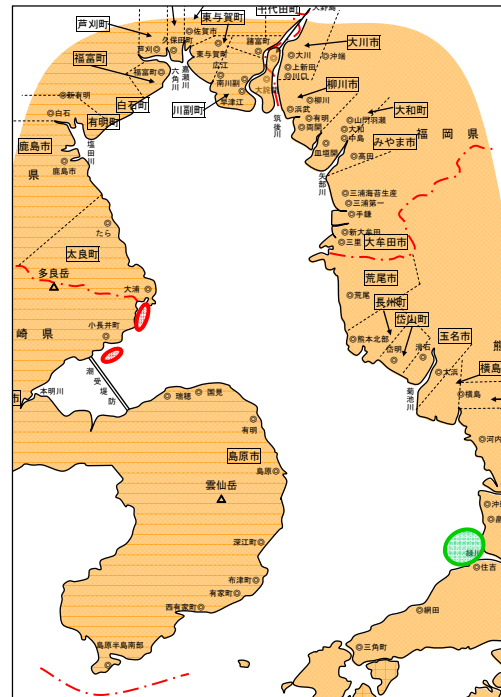
〔期待される効果〕

- アサリ母貝場の創出によるアサリ資源の回復
- アサリ母貝場の機能維持手法の確立による資源の回復

佐賀県

○該当なし

事業実施位置図



福岡県

○該当なし

長崎県

〔調査内容〕

- 1) 覆砂漁場へアサリ種苗を放流後、食害防護を設置し、アサリ種苗の生育密度等の推移による母貝場効果を検討
- 2) 諫早湾における環境条件に適した覆砂材の検討

〔調査場所〕

- 1) 諫早湾（小長井）
- 2) 諫早湾（小長井、瑞穂）

〔調査数量〕

- 1) 2.0t
- 2) 試験覆砂 A=0.2ha

〔調査時期〕

- 1) 11月～2月
- 2) 12月～2月

熊本県

〔調査内容〕

- 1) 漁業者による耕うん等の漁場環境改善対策被覆網張替え等による食害防止機能の維持
- 2) 定期的な保護区内のアサリ生息状況の把握による母貝場としての機能評価指標を検討
- 3) 漁業者によるアサリ母貝の生息量把握手法の検討

〔調査場所〕

緑川河口域3箇所（熊本市～宇土市地先）

〔調査数量〕

計28,000m²

〔調査時期〕

6月～3月

【長崎②】 施 策 名 :アサリの母貝場調査

〔アサリ〕

〔目 的〕

○覆砂漁場におけるアサリの母貝場の形成

〔期待される効果〕

○アサリ母貝場の創出による資源の回復



事業実施位置図



〔H29年度 覆砂実施区(釜地区)〕

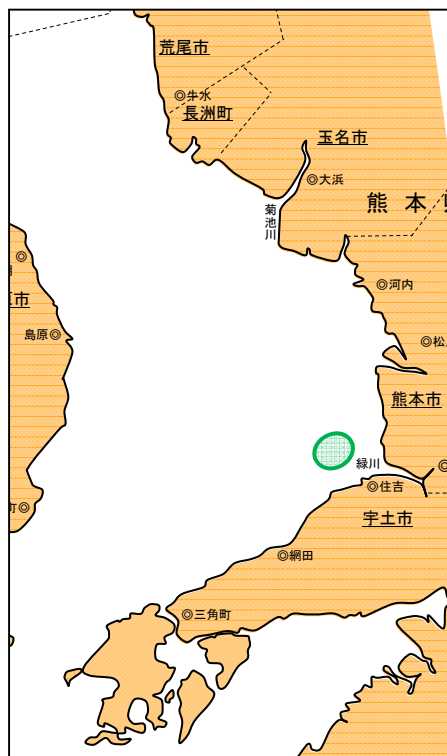
事業名	有明海特産魚介類生息環境調査委託事業	
事業主体	長崎県（九州農政局より委託）	
実施期間	H30年度	
	H27年度～H29年度	H30年度
〔調査内容〕	H27年度に未利用漁場の覆砂試験区を造成し、H28～29年度にアサリ種苗を放流 （調査場所：諫早湾（小長井） 実施数量：覆砂 0.66ha、種苗放流 5.4t 調査期間：10月～2月） 〔成 果〕 ・H28年度放流種苗は、放流後の生残は経過3ヶ月で97%。その後大幅に減少 ・H29年度放流種苗は1月の放流後、2月に19% 3月に5.9%となり、生残率の推移が低い傾向	〔調査内容〕 1) 覆砂漁場へアサリ種苗を放流後、食害防護網を設置し、アサリ種苗の生育密度等の推移による母貝場効果を検討 （調査場所：同左 調査数量：2.0t 調査期間：11月～2月） 2) 諫早湾における環境条件に適した覆砂材の検討 （調査場所：諫早湾（小長井、瑞穂） 調査数量：覆砂0.2ha 調査期間：12月～2月） 〔調査状況〕 分析中

〔目 的〕

○アサリ母貝場の保護区化

〔期待される効果〕

○アサリ母貝場の機能維持手法の確立による資源の回復



事業実施位置図

事 業 名	有明海特産魚介類生息環境調査委託事業	
事 業 主 体	熊本県(九州農政局より委託)	
実 施 年 度	平成30年度	
	H27年度～H29年度	H30年度
〔調査内容〕	1)緑川河口域のアサリ稚貝高密度発生場所の漁場を保護区化し、漁業者による食害生物駆除、耕うん、被覆網設置及び稚貝移植等を実施 2)保護対策効果把握のためのモニタリングを実施 調査場所: 緑川河口域3箇所 (熊本市～宇土市地先) 調査数量: 3箇所 計28,000m² 調査期間: 8月～2月	〔調査内容〕 1)漁業者による耕うん等の漁場環境改善対策 被覆網張替え等による食害防止機能の維持 2)定期的な保護区内のアサリ生息状況の把握による母貝場としての機能評価指標を検討 3)漁業者によるアサリ母貝の生息量把握手法の検討 調査場所: 同左 調査数量: 同左 調査期間: 6月～3月
〔成 果〕	漁業者による保護区化を実施し、対照区と比べ、最大2.9倍の保護効果を確認(H29.7時点調査)	〔調査状況〕 分析中
	 〔底質改善資材散布状況〕	 〔食害対策実施状況〕

③種苗放流

〔アサリ〕

〔目 的〕

○アサリ種苗を用いた放流技術及び管理技術の開発

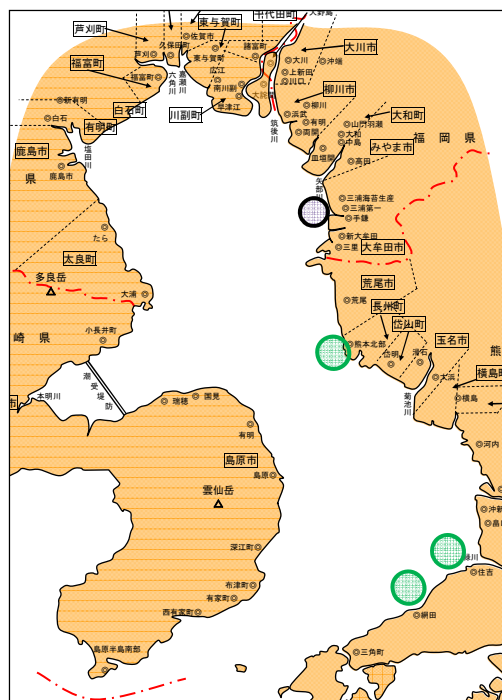
〔期待される効果〕

○アサリ種苗を用いた生産性向上及び産卵母貝の確保

佐賀県

○該当なし

事業実施位置図



福岡県

〔実施内容〕

被覆網を用いた減耗防止試験及びサイズ別、地盤高別放流効果の試験

〔実施場所〕

大牟田市沖（有区第303号）

〔実施期間〕

8月～3月

〔実施数量〕

4.5万個体

長崎県

○該当なし

熊本県

〔実施内容〕

中間育成した人工種苗を網袋内に収容（被覆網で保護）、漁場に放流後、生残・成長を調査

〔実施場所〕

長洲町沖、熊本市沖、宇土市沖

〔実施数量〕

63万個体

〔実施期間〕

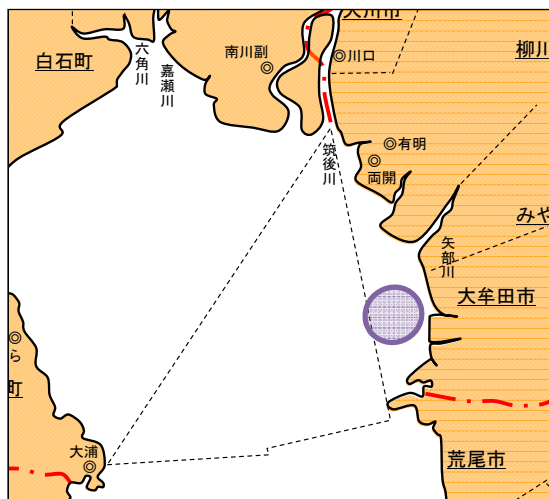
10月～3月

〔目 的〕

○アサリ種苗を用いた放流技術及び管理技術の開発

〔期待される効果〕

○アサリ種苗を用いた生産性向上及び産卵母貝の確保



事業実施位置図

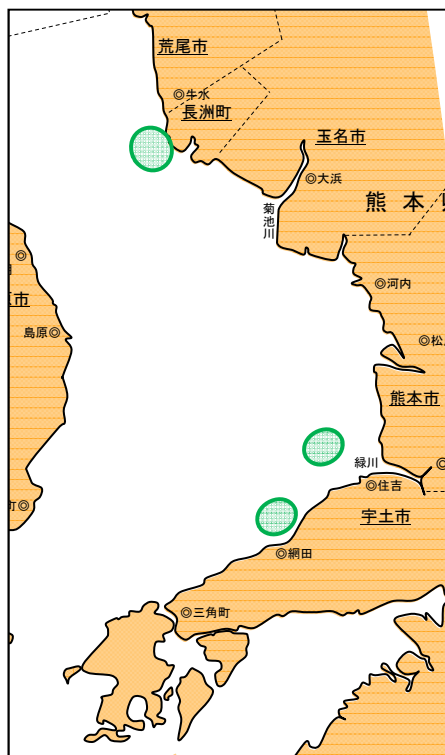
事業名	有明海漁業振興技術開発事業	
事業主体	福岡県（水産庁補助事業）	
実施年度	H30年度	
	H27年度～H29年度	H30年度
	〔実施内容〕 サイズの異なるアサリを放流後、被覆網等で保護し、残留状況、成長及び生残状況を調査 〔実施場所：大牟田市沖（有区第303号） 実施数量：約7万個体 実施期間：H27～H29年（周年）〕 〔成果〕 小型アサリ（殻長約10mm）は逸散により放流効果が認められなかったが、大型アサリ（殻長24mm）は被覆網による逸散防止効果を確認 〔被覆網区：平均殻長31.7mm、残存率95.9% 対照区：平均殻長28.2mm、残存率59.2%〕  〔放流試験（減耗防止）〕	〔実施内容〕 被覆網を用いた減耗防止試験及びサイズ別、地盤高別放流効果の試験 〔実施場所：同左 実施数量：4.5万個体 実施期間：8月～3月〕 〔実施状況〕 放流試験を実施中

〔目 的〕

○アサリ種苗を用いた放流技術の開発

〔期待される効果〕

○アサリ種苗を用いた生産性向上及び産卵母貝の確保



事業実施位置図

事業名	有明海漁業振興技術開発事業		
事業主体	熊本県(水産庁補助事業)		
実施年度	H30年度		
	H27年度～H29年度	H30年度	
	〔実施内容〕 海上育成施設によるアサリ稚貝(1mm)の効率的な中間育成手法及び網袋を用いた放流手法の検討 〔実施場所:長洲町沖、熊本市沖 実施数量:111万個体(H29年度) 実施期間:10月～2月〕 〔成 果〕 30～77万個体を試験放流した結果、網袋を用いた放流が有効であることを確認	〔実施内容〕 中間育成した人工種苗を網袋内に収容(被覆網で保護)、漁場に放流後、生残・成長を調査 〔実施場所:長洲町沖、熊本市沖、宇土市沖 実施数量:63万個体 実施期間:10月～3月〕 〔実施状況〕 9/25に人工種苗43万個体を網袋へ収容し放流 現在、放流後の生残・成長を調査中	
	 〔中間育成施設〕	 〔稚貝放流実施状況〕	 〔網袋設置〕
		 〔被覆網設置〕	

④稚貝中間育成

〔アサリ〕

〔目 的〕

○アサリ種苗を用いた中間育成技術の開発

〔期待される効果〕

○アサリ種苗の放流最適サイズまでの効率的な育成

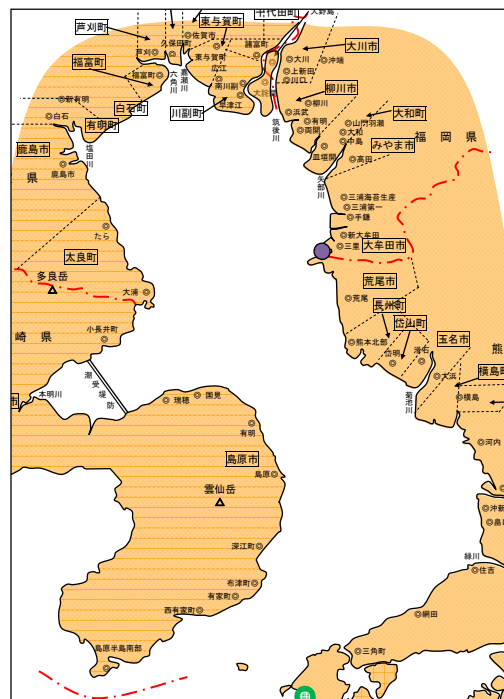
佐賀県

○該当なし

長崎県

○該当なし

事業実施位置図



福岡県

〔実施内容〕

浮泥、付着物対策として、港湾施設内において野菜カゴによる人工アサリ種苗(殻長約1mm)を用いた中間育成試験

〔実施場所〕

三池港

〔実施数量〕

45万個体

〔実施時期〕

5月～7月

熊本県

〔実施内容〕

中間育成施設を利用し、殻長1mm種苗を放流サイズ(6mm以上)まで育成試験

〔実施場所〕

熊本県水産振興センター

〔実施数量〕

216万個体(殻長1mm)

〔実施時期〕

7月～9月

【福岡④】 施策名：アサリの中間育成技術開発

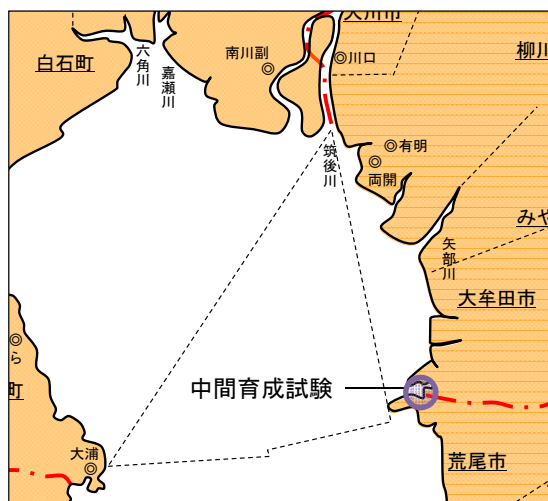
〔アサリ〕

〔目的〕

○アサリ種苗を用いた中間育成技術の開発

〔期待される効果〕

○アサリ種苗の放流最適サイズまでの効率的な育成



事業実施位置図

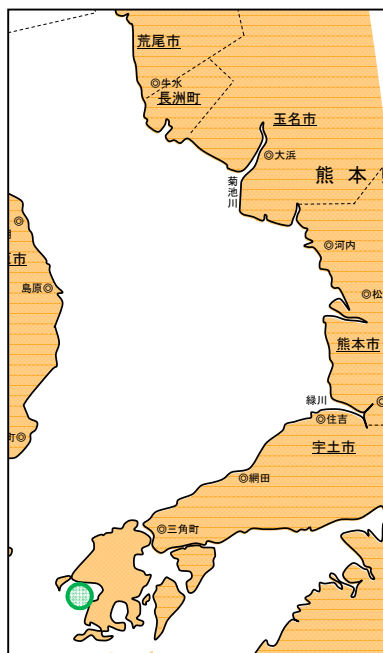
事業名		有明海漁業振興技術開発事業	
事業主体		福岡県（水産庁補助事業）	
実施年度		H30年度	
	H27年度～H29年度	H30年度	
〔実施内容〕 浮泥、付着物対策として、港湾施設内において野菜カゴによる人工アサリ種苗(殻長約1mm)を用いた中間育成試験 〔実施場所:三池港 実施数量:約40万個体 実施期間:5月～8月、8月～12月〕 〔成果〕 ・春～夏の生残率38～74%、殻長6.2～8.3mm ・夏～冬の生残率12～19%、殻長6.4～7.8mm ・浮泥が堆積せず管理も殆ど不要 ・年により成長、生残も良好であるが、成長と生残率に差異有  〔野菜カゴによる中間育成試験〕	〔実施内容〕 同左(設置地盤高、密度等) 〔実施場所:同 左 実施数量:45万個体 実施期間:5月～7月〕 〔実施状況〕 春～夏の生残率約30%、殻長7.8mm		

〔目 的〕

○アサリ種苗を用いた中間育成技術の開発

〔期待される効果〕

○アサリ種苗の放流最適サイズまでの効率的な育成



事業実施位置図

事業名	有明海漁業振興技術開発事業	
事業主体	熊本県(水産庁補助事業)	
実施年度	H30年度	
	H27年度～H29年度	H30年度
〔実施内容〕	中間育成施設(フラプシー)を利用し、殻長1mm種苗を放流サイズ(6mm以上)まで育成試験 〔実施場所:熊本県水産振興センター(上天草市大矢野地先) 実施数量:約150万個体 実施期間:7月～9月〕	〔実施内容〕 同 左 〔実施場所:同左 実施数量:約216万個体 実施期間:同左〕
〔成 果〕	150万個体の殻長1mm種苗を殻長6mm以上まで中間育成した結果、生残率50%を確保	〔実施状況〕 216万個体の殻長1mm種苗を殻長6mmまで中間育成した結果、生残率28.9% (現時点、生残率低下原因は、夏季の高水温の影響であると推定)
	 〔中間育成施設〕	 〔稚貝放流実施状況〕

⑤網袋式増養殖

〔アサリ〕

〔目 的〕

○網袋式養殖の実用化に向けた採苗手法の調査

〔期待される効果〕

○網袋式養殖の生産現場への導入による漁獲量の回復

佐賀県

○該当なし

長崎県

〔調査内容〕

- 1) 網袋式養殖の生産現場に導入可能な各種採苗手法、網袋内でのアサリの生育環境を調査
- 2) 天然アサリの着底及び漁場環境を調査し、アサリの生息状況を継続的に把握

〔調査場所〕

諫早湾（小長井、瑞穂）

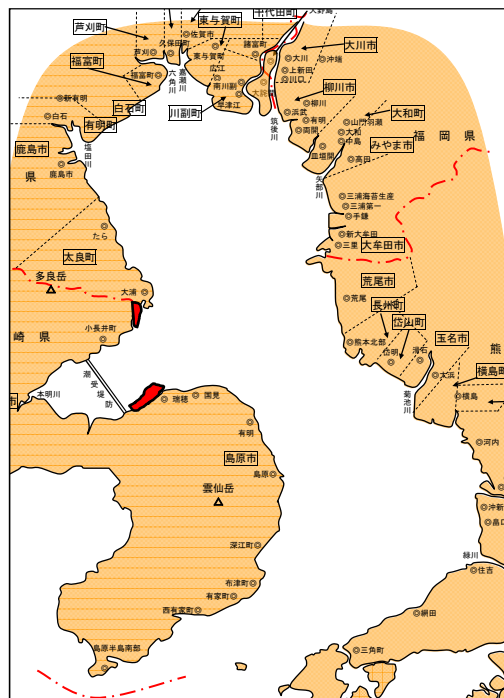
〔調査数量〕

月 1 回程度

〔調査期間〕

5 月～ 2 月

事業実施位置図



福岡県

○該当なし

熊本県

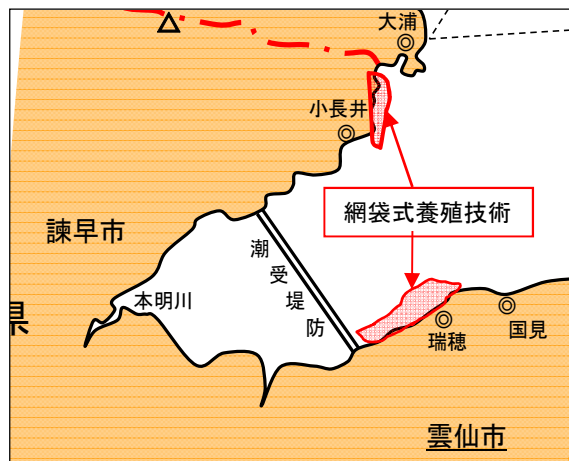
○該当なし

〔目的〕

○網袋式養殖の実用化に向けた採苗手法の調査

〔期待される効果〕

○網袋式養殖の生産現場への導入による漁獲量の回復



事業実施位置図



〔採苗袋による稚貝着底促進〕

○事業名：	有明海特産魚介類生息環境調査委託事業
○事業主体：	長崎県（九州農政局より委託）
○実施期間：	H30年度
H27年度～H29年度	
1 網袋式増養殖のための調査 〔調査内容〕 網袋方式による増養殖試験を実施 （調査場所：諫早湾（小長井、瑞穂） 調査数量：月1回程度 調査期間：10月～2月） 〔成果〕 網袋設置は冬季が有効であり干潟の3倍の歩留まり、網袋1袋あたり2kg程度の生産を確認	
2 好適生息環境及び稚貝着底促進試験 〔調査内容〕 稚貝の移植適地の検討及び採苗袋（砂利等）を漁場に設置し、着底促進に効果的な漁場環境を調査 （調査期間：H27.5～H29.2 調査場所：雲仙市瑞穂地区、国見地区 調査数量：月1回程度） 〔成果〕 ・地盤高0.5～2mで比較した結果、生息密度及び網袋での稚貝密度は0.5mが最適であることを確認 ・底質の全硫化物や粒径等は好適範囲内で推移	
H30年度	
1 網袋式増養のための採苗手法の調査 〔調査内容〕 網袋式養殖の生産現場に導入可能な各種採苗手法（時期、稚貝サイズ、採苗基質の必要量）、網袋内でのアサリの生育環境を調査 （調査場所：諫早湾（小長井、瑞穂） 調査数量：月1回程度 調査期間：5月～2月） 〔調査状況〕 分析中	
2 天然貝の生育状況の把握 〔調査内容〕 養殖漁場において、天然アサリの着底及び漁場環境を調査し、アサリの生息状況を継続的に把握 （調査場所：諫早湾（小長井、瑞穂） 調査数量：月1回程度 調査期間：5月～2月） 〔調査状況〕 小長井地区で6月以降に1mm稚貝の着底を確認 8月には1万個体／㎡の生息を確認	

⑥貧酸素対策調査

〔アサリ〕

〔目的〕

○アサリ漁場における貧酸素対策の検討

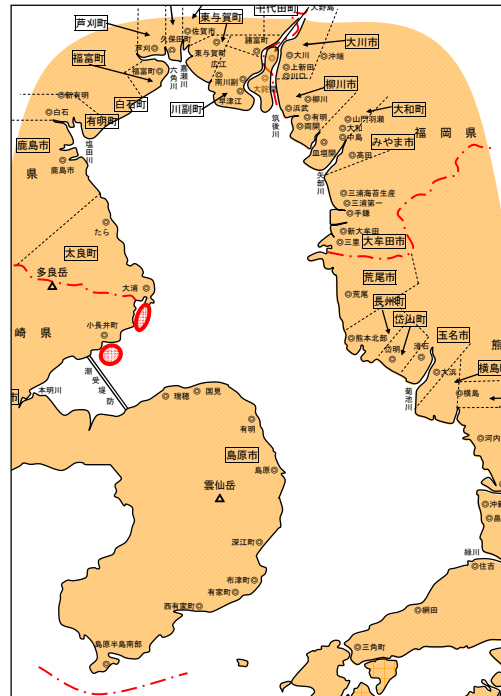
〔期待される効果〕

○高濃度酸素水供給による躍層の抑制、底質環境の改善

佐賀県

○該当なし

事業実施位置図



福岡県

○該当なし

長崎県

〔調査内容〕

アサリ漁場への高濃度酸素水供給による水質、底質及び潮流等の変化を調査

〔調査場所〕

諫早市小長井町釜、金崎地先（台船による）

〔調査数量〕

80日間

〔調査期間〕

7月～10月

熊本県

○該当なし

【長崎⑥】 施 策 名 : アサリ漁場における貧酸素対策調査

【アサリ】

〔目 的〕

○アサリ漁場での貧酸素対策の検討

〔期待される効果〕

○高濃度酸素水供給による躍層の抑制、底質環境改善



事業実施位置図

事 業 名	有明海特産魚介類生息環境調査委託事業	
事 業 主 体	長崎県(九州農政局より委託)	
実 施 期 間	H30年度	
	H27年度～平成29年度	H30年度
	〔調査内容〕 アサリ漁場への高濃度酸素水供給による水質、底質、潮流等の変化を調査 〔調査場所:小長井町釜、金崎地先(台船による)〕 調査数量:90日間 調査期間:7月～10月 〔成 果〕 ・高濃度酸素供給後に海底付近と海面付近のDO、水温、塩分の差が減少し、表層水と底層水の混合による塩分躍層、密度成層の解消を確認 ・調査期間中、貧酸素状態は殆ど確認されず、酸素濃度は概ね飽和、過飽和の状態もしくはDOが高い範囲であることを確認	〔調査内容〕 同 左 (供給位置の定期的移動、効果範囲の拡大を含む) 〔調査場所:同左〕 調査数量:80日間 調査期間:同左 〔調査状況〕 分析中

⑦餌料環境改善

〔アサリ〕

〔目的〕

○アサリの減耗要因究明及び餌料環境改善手法の検討

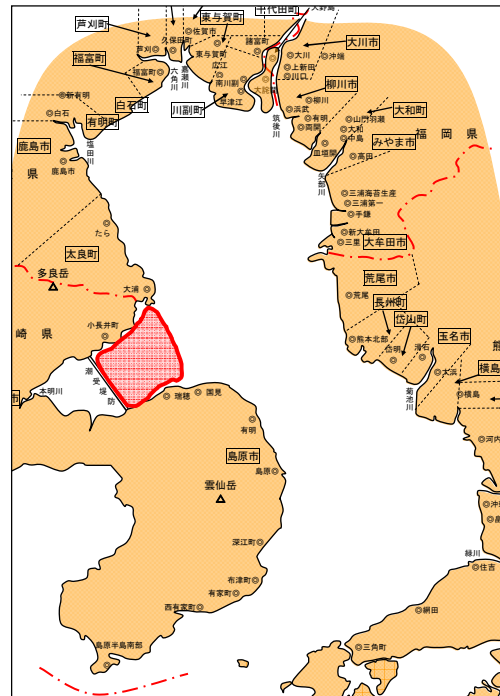
〔期待される効果〕

○アサリの餌料環境改善による資源回復

佐賀県

○該当なし

事業実施位置図



福岡県

○該当なし

長崎県

〔調査内容〕

- 1) 諫早湾内での漁場環境（水温、塩分、溶存酸素濃度、餌料量等）の調査
- 2) アサリの成育状況把握及び干潟域での漁場環境調査
- 3) 海底耕うんによる珪藻シストの巻き上げ及び珪藻増殖効果の検討

〔調査場所〕

諫早湾（小長井、瑞穂）

〔調査時期・数量〕

- 1) 6月～2月（月1～4回）
- 2) 6月～2月（月1回程度）
- 3) 9月～10月（4回程度）

熊本県

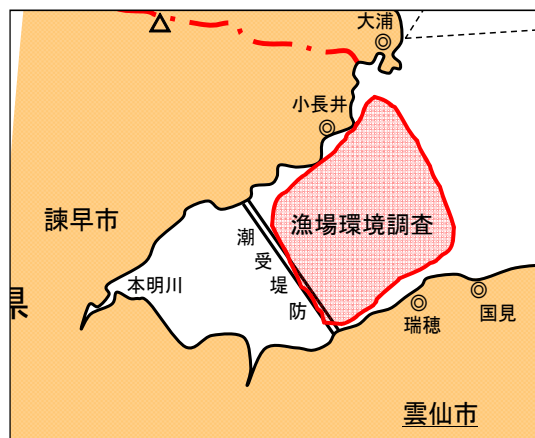
○該当なし

〔目的〕

○アサリの減耗要因究明及び餌料環境改善手法の検討

〔期待される効果〕

○アサリの餌料環境改善による資源回復



事業実施位置図

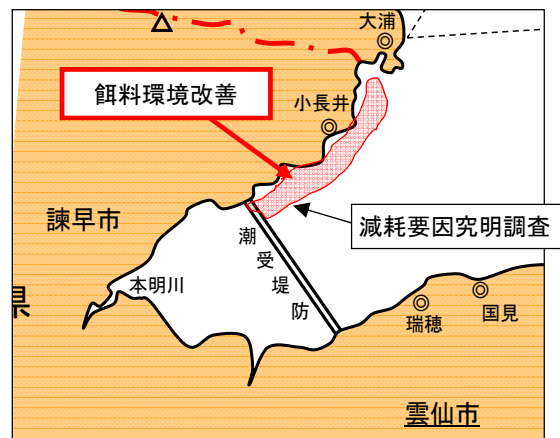
○事業名：	有明海特産魚介類生息環境調査委託事業	
○事業主体：	長崎県（九州農政局より委託）	
○実施期間：	H30年度	
	H27年度～H29年度	H30年度
1 餌料環境調査 〔調査内容〕 諫早湾での増養殖適地選定のための餌料環境を調査 （調査場所：諫早湾（小長井、瑞穂） 調査数量：月2～4回 調査期間：6月～2月） 〔成果〕 南部（瑞穂側）で春～夏季に、北部（小長井側）で周年、餌料不足の傾向を確認 2 減耗要因把握調査 〔調査内容〕 諫早湾での餌料環境不足以外の減耗要因を調査 （調査場所：諫早湾（小長井） 調査数量：水温、塩分2地点、DO、蛍光強度1地点 調査期間：6月～2月） 〔成果〕 夏季の低塩分と貧酸素の影響は確認されず、夏～秋季の減耗は餌不足の関与と推察	1 漁場環境調査 〔調査内容〕 諫早湾内での漁場環境（水温、塩分、溶存酸素濃度、餌料量等）を調査 （調査場所：諫早湾（小長井、瑞穂） 調査数量：1～4回（月） 調査期間：6月～2月） 〔調査状況〕 分析中 2 減耗要因究明調査 〔調査内容〕 アサリの育成状況の把握及び干潟域での漁場環境調査 （調査場所：諫早湾（小長井） 調査数量：月1回程度 調査期間：6月～2月） 〔調査状況〕 分析中	

〔目的〕

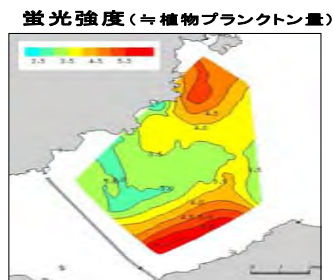
○アサリの減耗要因の究明及び餌料環境改善手法を検討

〔期待される効果〕

○アサリの餌料環境改善による資源回復



事業実施位置図



〔餌料環境等調査の結果図〕

○事業名：	有明海特産魚介類生息環境調査委託事業
○事業主体：	長崎県（九州農政局より委託）
○実施期間：	H30年度
H27年度～H29年度	
3 餌料環境改善（試験検証） 〔調査内容〕 諫早湾での海底耕うんにより、アサリの餌料となる珪藻のシストの巻き上げ効果を試験的に検証 （調査場所：諫早湾（小長井） 調査数量：2回 調査期間：8月～11月） 〔成果〕 海底耕うんでの巻き上げ効果を確認するとともに、小長井地先底泥での珪藻シストの存在を確認	
H30年度	
3 餌料環境改善手法の検討 〔調査内容〕 海底耕うんによる珪藻シストの巻き上げ及び珪藻増殖効果の検討 （調査場所：諫早湾（小長井、瑞穂） 調査数量：4回程度 調査期間：9月～10月） 〔調査状況〕 海底耕うんによる試験を実施中	

⑧生息環境改善

〔アサリ〕

〔目 的〕

○アサリ漁場の底質環境改善

〔期待される効果〕

○アサリ漁場の生産力向上及び漁獲の維持・増加

佐賀県

〔実施内容〕

海底耕うん

〔実施場所〕

佐賀県沖有明海

〔実施数量〕

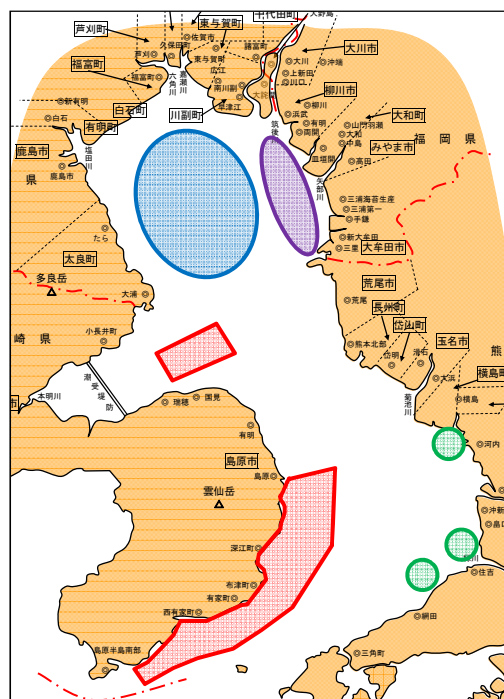
A = 450ha

〔実施期間〕

9月

※海底耕うんは漁獲対象となる全ての底生魚介類を対象

事業実施位置図



福岡県

〔実施内容〕

覆 砂

〔実施場所〕

柳川市地先、大牟田市地先

〔実施数量〕

A = 74ha

〔実施期間〕

6月～9月

長崎県

〔実施内容〕

海底耕うん

(一部海域で貝殻散布を合わせて実施)

〔実施場所〕

諫早湾及び長崎県沖有明海

〔実施数量〕

A = 1,700ha

〔実施期間〕

11月～3月

※海底耕うんは漁獲対象となる全ての底生魚介類を対象

熊本県

〔実施内容〕

覆 砂

〔実施場所〕

河内地区、川口地区、網田地区

〔実施数量〕

A = 14ha

〔実施期間〕

8月

【福岡⑧】施 策 名:覆砂

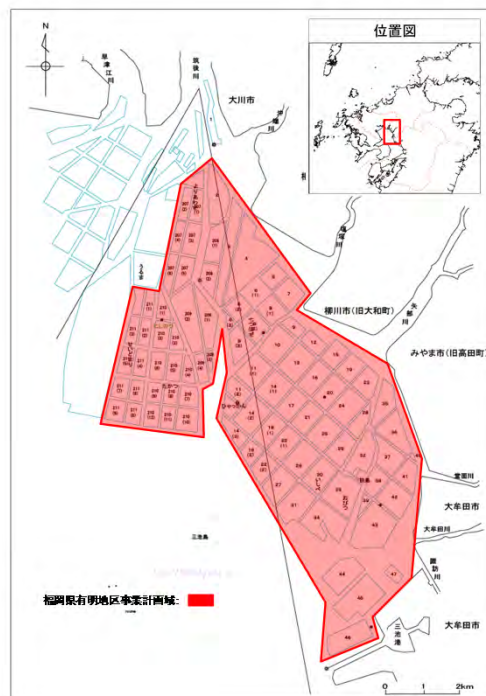
〔アサリ〕

〔目 的〕

○アサリ漁場の底質環境改善

〔期待される効果〕

○アサリ漁場の生産力向上及び漁獲の維持・増加



事業実施位置図

事業名	水産基盤整備事業	
事業主体	福岡県(水産庁補助事業)	
実施年度	H30年度	
	H27年度～H29年度	H30年度
〔実施内容〕 覆 砂	〔実施内容〕 覆 砂	
〔実 績〕 〔 柳川、大牟田市地先 H27: 砂厚35cm、造成面積約94ha H28: 砂厚35cm、造成面積約79ha H29: 砂厚35cm、造成面積約94ha 〕	〔 柳川、大牟田市地先 砂厚35cm、造成面積約74ha 6月～9月に実施 〕	
	砂投入状況 	ならし後の状況 

【佐賀⑧】施 策 名 : 海底耕うん

〔アサリ〕

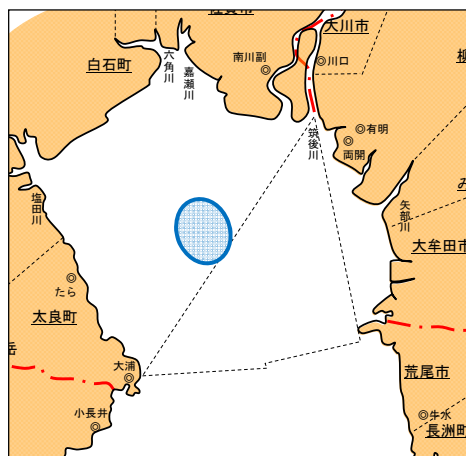
〔目 的〕

○底生魚介類漁場の底質環境を改善

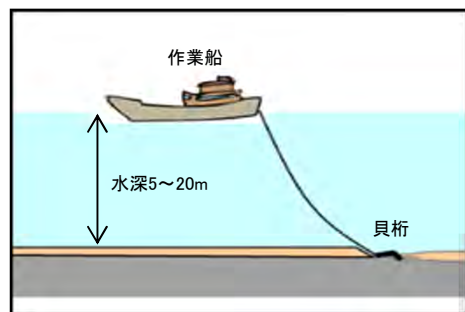
※漁獲対象となる全ての底生魚介類が対象

〔期待される効果〕

○漁獲資源の回復



事業実施位置図



〔耕うんのイメージ図〕

事業名	水産環境整備事業	
事業主体	佐賀県(水産庁補助事業)	
実施年度	H30年度	
	H27年度～H29年度	H30年度
〔実施内容〕 漁船による貝桁の曳航	〔実施内容〕 同 左	
	〔実施場所: 佐賀県沖有明海 実施数量: 計2,165ha 実施期間: 9月〕	〔実施場所: 同左 実施数量: 450ha 実施期間: 同左〕

【長崎⑧】 施 策 名:海底耕うん

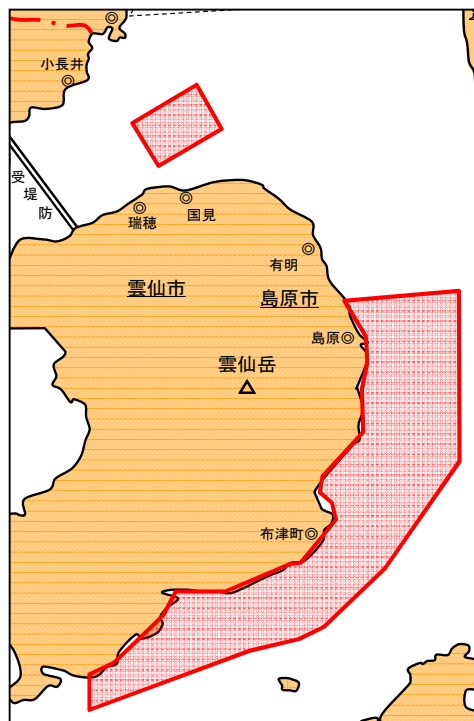
〔アサリ〕

〔目 的〕

- 底生魚介類漁場の底質環境を改善
※漁獲対象となる全ての底生魚介類が対象

〔期待される効果〕

- 漁獲資源の回復



事業実施位置図



〔耕うん器具〕



〔耕うん状況〕

事業名	水産環境整備事業（有明海沿岸地区）	
事業主体	長崎県（水産庁補助事業）	
実施期間	H30年度	
	H27年度～H29年度	H30年度
〔実施内容〕		
・毎年、海底耕うん等を約1,700ha実施 ・耕うん効果把握のための底質調査を実施（粒度組成、全硫化物、CODなど）		
実施場所：諫早湾及び長崎県沖有明海 実施数量：計5,100ha 実施期間：9月～12月		
〔成 果〕		
・一部の海底耕うん実施区では、対照区に比べ、底質の粒度組成の粘土、シルト分の増加が少ない傾向 ・底生生物の個体数が、対照区に比べて多い傾向		
	〔実施内容〕 ・貝桁曳航による海底耕うん（一部海域で貝殻散布を合わせて実施） ・耕うん効果把握のための底質調査を実施（粒度組成、全硫化物、CODなど） 実施場所：同左 実施数量：計1,700ha 実施期間：11月～3月	

【熊6】 施 策 名：覆砂(アサリ漁場造成)

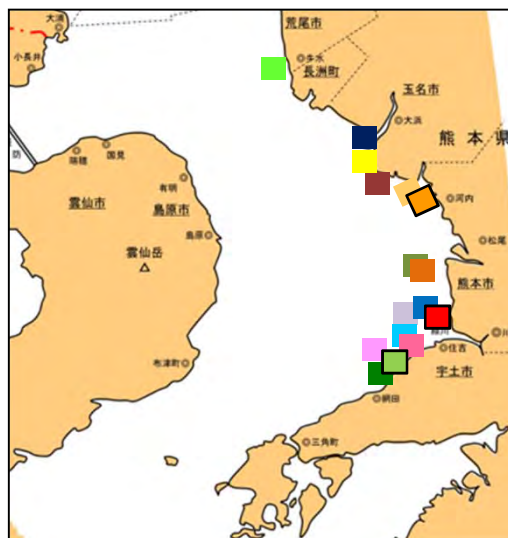
〔アサリ〕

〔目 的〕

○アサリ漁場の底質環境の改善

〔期待される効果〕

○アサリ漁場の生産力向上と漁獲の維持及び増加



事業実施位置図

凡 例	
川口地区: H27	川口地区: H28
網田地区: H28	網田地区: H30
松尾・小島・沖新地区: H28	松尾・小島・沖新地区: H29
河内地区: H27	河内地区: H30
滑石地区: H28	滑石地区: H29
熊本北部地区: H29	熊本北部地区: H30
海路口地区: H29	海路口地区: H30
横島地区: H28	横島地区: H29
岱明地区: H28	岱明地区: H29
島口地区: H29	島口地区: H30
住吉地区: H29	住吉地区: H30

事業名	水産環境整備事業(有明海東地区)										
事業主体	熊本県(水産庁補助事業)										
実施年度	H30年度										
H27年度～H29年度										H30年度	
〔実施内容〕 覆 砂 (H27:t=30cm、造成面積約27ha H28:t=30cm、造成面積約48ha H29:t=30cm、造成面積約43ha)										〔実施内容〕 覆 砂 (河内地区 約4ha(8月) 川口地区 約6ha(8月) 網田地区 約4ha(8月))	
表 H27～H29における地区別の覆砂面積											
施工年度	熊本北部	岱明	滑石	横島	河内	松尾・小島・沖新	島口	海路口	川口	住吉	網田
H27					3ha				24ha		
H28		6ha	3ha	3ha		12ha			21ha		3ha
H29	6ha					19ha	7ha	3ha		8ha	
〔成 果〕 覆砂漁場でアサリの高密度生息域を確認(H29年秋期調査) 有明海覆砂漁場平均アサリ生息密度:1,961個/m ² 対照区平均アサリ生息密度 :184個/m ²										アサリ分布状況調査 分析中	

⑨生息状況調査

〔アサリ〕

〔目 的〕

○アサリ天然稚貝の母貝場機能を検討

〔期待される効果〕

○着底基質設置によるアサリ着底環境の改善

佐賀県

〔調査内容〕

天然漁場及び被覆網下、網袋内のアサリ生息状況を調査

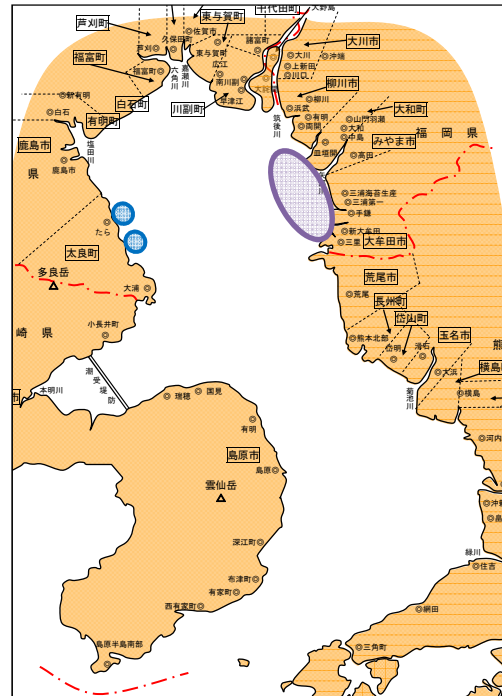
〔調査場所〕

太良町沖、糸岐川河口域

〔調査数量〕

周年（月1回）

事業実施位置図



福岡県

〔調査内容〕

着底基質に着底した天然アサリの母貝機能を調査（個体数、殻長、成熟状況）

〔調査場所〕

4 地点（有区 3 号、8 号、37 号、303 号）

〔調査数量〕

試料採取：2 回/年（5 月、11 月）

長崎県

○該当なし

熊本県

○該当なし

【福岡⑨】 施策名:アサリの生息状況調査

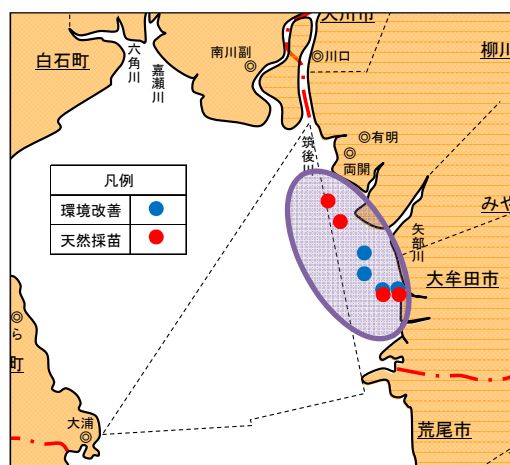
〔アサリ〕

〔目的〕

○アサリ天然稚貝の母貝場機能を検討

〔期待される効果〕

○着底基質設置によるアサリ着底環境の改善



事業実施位置図



〔クラムマット区〕



〔砂利袋区〕

事業名	有明海特産魚介類生息環境調査委託事業	
事業主体	福岡県(九州農政局より委託)	
実施年度	H30年度	
	H27年度～H29年度	H30年度
1 覆砂による底質環境改善	〔調査内容〕 覆砂によるアサリ生息環境の改善 〔調査場所・数量〕 柳川地先 : 有区第20号(約1ha, 20cm厚) 有区第25号(約1ha, 50cm厚) 大牟田地先 : 有区第37号(約1ha, 20cm厚) 有区第303号(約133ha, 35cm厚) 〔調査期間: 6月、8月〕	
2 天然採苗試験	〔調査内容〕 着底基質(クラムマット、砂利袋)の設置 〔調査場所・数量〕 柳川地先 : 有区第3号(クラムマット540袋, 砂利360袋) 有区第8号(クラムマット360袋) 大牟田地先 : 有区第37号(クラムマット906袋, 砂利675袋) 有区第303号(クラムマット720袋, 砂利450袋) 〔調査期間: 周年〕 〔採苗効果〕 有区8号 : 346～478個/㎡ 有区3号 : 553～1,034個/㎡ 有区37号 : 451～526個/㎡ 有区303号 : 121～241個/㎡	
1 天然採苗試験	〔調査内容〕 着底基質に着底した天然アサリの母貝機能を調査 (個体数、殻長、成熟状況) 〔調査場所・数量〕 調査場所: 4地点(有区3号、8号、37号、303号) 調査数量: 2回 調査期間: 5月、11月 〔調査状況〕 現在、分析中 〔参考〕 覆砂による底質環境改善効果の維持状況は別途県単事業で実施 〔調査場所・数量〕 調査場所: 4地点(有区20号、25号、37号、303号) 調査数量: 1～2回 〔調査状況〕 現在、分析中	

【佐賀⑨】 施 策 名 : アサリの生息状況調査

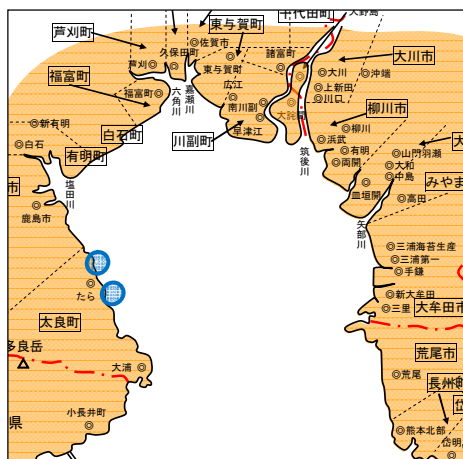
〔アサリ〕

〔目 的〕

○アサリ天然稚貝の母貝場機能を検討

〔期待される効果〕

○着底基質設置によるアサリ着底環境の改善



事業実施位置図



〔網袋(稚貝捕捉器)〕

事業名	有明海特産魚介類生息環境調査委託事業	
事業主体	佐賀県(九州農政局より委託)	
実施年度	H30年度	
	H27年度～H29年度	H30年度
	〔調査内容〕 ・網袋の設置(5,000袋)による着底促進 ・被覆網の設置による生残向上 ・着底稚貝～成貝分布調査 〔調査場所: 太良町沖、糸岐川河口域〕 〔調査数量: 12回〕 〔調査期間: 周年〕 〔成 果〕 ○多良川及び糸岐川河口干潟の天然漁場4地点において春季発生群の稚貝発生状況を確認 (平均生息密度5,158個/㎡ (8月)) ○糸岐川河口干潟において網袋による採苗効果を確認 〔網袋内: 66.6個/㎡～488.8個/㎡〕 〔対照区: 0個/㎡〕	〔調査内容〕 天然漁場及び被覆網下、網袋(3,000袋)内のアサリ生息状況を調査 〔調査場所: 同左〕 〔調査数量: 同左〕 〔調査期間: 同左〕 〔調査状況〕 分析中